

令和元年10月11日付【南日本新聞】
九州支部 薩摩川内市と3団体
大災害時、県外からも支援 <下水道復旧へ協定>

下水道復旧へ協定

薩摩川内市と3団体
大災害時、県外からも支援



協定書に署名、押印する関係者11日、薩摩川内市役所

協は下水道管の損傷状況の調査や管内に堆積した土砂の除去、施設協は下水道設備の被災状況調査などに当たる。

同日は市役所で調印式があり、水コン協九州支部の矢神洋一災害支援委員、管路協の橋本恒幸九州支部長、施設協の堀江信之専務理事が出席。岩切秀雄市長は「全国規模の支援態勢が確立されて大変心強い。市民が安全安心に暮らせる街づくりのために、3団体の力をお借りしたい」と感謝した。(五反田和美)

薩摩川内市は8日、下水道管理などに携わる全国、広域の計3団体と、大規模災害時の支援協力に関する協定を結んだ。地震や風水害などで下水道施設が被災した場合に、県内外の会員業者の協力を受け、速やかに下水道機能を復旧、維持する。3団体は、全国上下水道コンサルタント協会九州支部(水コン協北九州市)、日本下水道管路管理業協会(管路協、東京都)、日本下水道施設業協会(施

設協、同。いずれも、同様の協定を県内自治体と結ぶのは初めて。大規模災害時、市が各協会に要請すると、協会が会員業者に協力を呼び掛け、業者が復旧支援に当たる。費用は市が負担。東日本大震災、熊本地震などで下水道施設が被災し、市民生活に大きく影響したことを受け、昨年度末ごろから、各協会に呼び掛けていた。水コン協は被災調査の方針策定や復旧工事の設計書作成に、管路